

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
65

2021

新たな執行部で臨む息吹を感じて

DOCTOR'S VOICE 01 「患者さんに学び、患者さんに還元する」を理念に「さらに愛される愛大病院」を目指す

DOCTOR'S VOICE 02 総務と経営という病院の両輪をバランスよく前に動かす

DOCTOR'S VOICE 03 シームレスな教育と適正な保険診療が行える環境づくり

DOCTOR'S VOICE 04 愛大の独自性を活かしたバイオバンクを目指す



「患者さんに学び、患者さんに還元する」を理念に「さらに愛される愛大病院」を目指す

医学部附属病院長 杉山 隆

■ 病院長就任にあたってのビジョンや展望を教えてください。

私が病院長を拝命した今年度は第3期中期計画・中期目標の最後の年にあたり、来年度からは第4期が始まります。第4期には地域医療連携の強化、高度医療の維持・発展、地域志向型の医療者の輩出、臨床・基礎の連携強化を介した研究の推進に加え、老朽化した病棟の再開発を加えたいと考えます。県内唯一の特定機能病院として、高度医療の提供に関しては、安全強化と種々の医療導入におけるプロセスにおいて、引き続きガバナンス強化を進めます。また、新型コロナウイルス感染症の第4波においては、多方面との協力・連携の重要性を実感しています。病院間だけではなく診療所も含めた地域医療ネットワークの維持・発展はもちろん、行政との連携も強め、県民の皆様から“さらに愛される愛大病院”を目指します。



■ 感染症対策について。

新型コロナ感染症の蔓延化に際し、内外のコロナ対応を積極的に行いました。第4波は落ち着きつつありますが、第5波がいつ生じても不思議ではありません。さて、当院の役割として、県内の重症患者さんの管理があげられます。第4波では、当院は県内の重症患者の約80%を受け入れる中、4月末にはほぼ満床という危機的状況に直面しました。人工呼吸器管理を必要とする新型コロナ患者さんの受け入れ拡大を県下の医療機関に連携依頼を行いました。また、感染抑制のための啓発活動も重要と考え、当院の佐藤救急科教授や田内感染制御部長に加え、村上愛媛県医師会長、菅愛媛県立中央病院長、横田松山赤十字病院長、そして行政の方の協力のもと共同記者会見を行い、県民の皆さんに医療の逼迫を訴え、感染防止対策の徹底に関するメッセージを届けました。さらに、新型コロナウイルス陰性化後の重症患者さんの後方支援についても、内外に連携を依頼しました。現在はワクチン接種に関し、愛媛大学として、職員の皆さんの協力を得て職域接種のみに取り組むだけではなく、接種の拡大・加速化を図るべく行政や病院・医師会と連携して取り組んでいます。重症コロナ患者さんの対応をいただいている方々には、この場を借りて重ねて感謝いたします。

PROFILE

すぎやまたかし◎1988年関西医科大学卒業。三重大学、東北大学を経て2015年から愛媛大学医学系研究科産婦人科学講座教授。2021年4月から附属病院長に就任。専門は周産期医学。連携を図る過程で、多くの人と会えることが楽しみ。

■ 新しく就任した副病院長への期待は？

副病院長には、各分野のエキスパートというべき先生方に就任してもらいました。まず、総務・経営担当の雑賀先生には、総務を担当いただきと共に2024年に始まる医師の労働時間短縮に向けた院内の働き方改革に取り組んでいただきます。サステイナブルな病院経営のために多方面で活躍いただきたいと思います。竹中先生は診療・教育担当で、現在は医学科教務委員長も兼任しています。今後、CBT (Computer Based Testing) やOSCE (Objective Structured Clinical Examination) の2つの試験が公用化されることになり、診療参加型臨床実習での医行為の実施促進が期待されますので、医学部教育から病院における臨床実習までの卒前教育の充実を図っていただきます。また、適正な保険診療の遂行にも携わっていただき、ひいては収益増加につなげていただきます。近年、基礎と臨床の連携の重要性は高まる一方です。橋渡し研究推進担当の大澤先生は臨床医でありながら、基礎研究にも造詣が深い方ですので、橋渡し研究の適任者です。私が病院長になるにあたって、バイオバンク設置が公約の1つでした。この設置に関しては、山下医学系研究科長や今村先端医療創生センター長と連携しながら重要な役割を担っていただきます。

■ 読者へのメッセージをお願いします。

私は、病院長として「さらに愛される愛大病院」を目指します。患者さんに安心・安全な医療を提供することはもちろん、医療従事者が安心・安全に医療を提供できるよう、さらなる取組を行ってまいります。私たち愛大病院は患者さんの幸福を願い、地域社会に貢献すべく、たゆまぬ努力を続け、職員一丸となり、患者さんを中心に高度医療を実現し続けます。

新副病院長紹介

総務と経営という病院の両輪をバランスよく前に動かす

総務・経営担当 副病院長 雜賀隆史

総務と経営は一見すると二律背反するようですが、私は事業効率を上げることで、働く一人ひとりのワーク・ライフ・バランスを高めながら病院経営の安定を得ることが可能だと考えています。企業や組織が取り組んでいる先進事例を探し、当院に合わせた形で積極的に取り入れます。さらに私自身の大学病院と民間病院におけるキャリアから、この両者の視点を活かします。まず具体的には女性医師をはじめ女性の医療従事者やスタッフが効率的に働く職場環境の整備です。さらに、職員の多様性を大事にしながら職務の効率化という共通意識を皆さんに持って頂くことで、誰もが働きやすいなかで収益につながる職場環境を作りたいと考えています。

**PROFILE**

さいかたかし◎1988年岡山大学医学部卒業、医学博士取得。広島市民病院泌尿器科主任部長を経て2016年6月より本学泌尿器科学教授。専門は尿路性器腫瘍学、膀胱鏡手術、機能温存手術。趣味は歴史小説と映画鑑賞。

新副病院長紹介

シームレスな教育と適正な保険診療が行える環境づくり

診療・教育担当 副病院長 竹中克斗

これまでの2年間、医学科教務委員長を務めており、学生教育全般の責任者をしてきました。2021年5月、医学部4回生の臨床前試験について法制化が決まりました。これによって学生が公的に「スチューデント・ドクター」として位置づけられ、臨床実習での実践的教育が可能になりました。現在、県内25病院で臨床実習を行っており、実践的教育現場となる先生方との協議を進めています。また診療分野では、適正な保険診療を確実に行えるように取り組みます。これは患者さんの権利であり、医師や医療関係者の安全を守ることにもなります。各診療科での問題点を洗い出しつつ、病状説明や各種同意などの記録を確実に残すシステムを目指します。

**PROFILE**

たけなかかつと◎1991年九州大学医学部卒業、同医学部第一内科入局。1997年岡山大学第二内科助手、2000年トロント小児病院血液腫瘍科、2002年オンタリオガンセンター細胞分子学でポストドクフェローとなり、2015年九州大学病院血液・腫瘍内科助教。2018年5月より本学血液・免疫・感染症内科学教授。

新副病院長紹介

愛大の独自性を活かしたバイオバンクを目指す

橋渡し研究推進担当 副病院長 大澤春彦

私は、臨床医である一方、基礎研究に長く携わってきました。その経験を活かして、基礎研究と臨床研究の融合を促進します。2022年4月にバイオバンク部門を設置するために、杉山病院長、山下医学系研究科長、今村先端医療創生センター長とも協議を重ね、基礎と臨床の先生方からなるワーキンググループを立ち上げました。医学部全体を共同体としてサンプルやデータを有効利用するプラットフォームを作り、集団の均一性や環境因子の比較のしやすさといった地方都市の特長を活かしていきます。愛大の独自性を打ち出しながら、学内外とも連携し、研究・論文発表を加速・発展させるバイオバンクを目指します。

**PROFILE**

おおさわはるひこ◎1984年千葉大学医学部卒業、医学博士。1991年米国バーンダービルト大学分子生理学・生物物理学、1997年愛媛大学臨床検査医学(糖尿病内科)助教授、2008年6月より同教授。遺伝子検査を応用した糖尿病高精度医療の確立が目標。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

FM愛媛・南海放送でラジオ番組がスタート



令和3年4月3日(土)17:30~、当院の杉山隆病院長がパーソナリティを務めるラジオ番組「Dr. 杉ちゃんの『ウィークエンドクリニック』」が、FM愛媛でスタートしました。この番組では、大学病院の今を楽しく、分かりやすく紹介します。

● 放送局: FM愛媛

放送日時: 毎週土曜日17:30~18:00

総務課企画・広報チーム 国089-960-5943



また、令和3年4月5日(月)12:30~、「わかもと製薬presents 聞きたい! 知りたい! 愛媛の健康」が南海放送ラジオでスタートしました。当学及び当院の医師等がプレゼンターの石井麻子さんとともに解説、情報発信していきます。

● 放送局: 南海放送

放送日時: 毎週月曜日12:30~12:35 (Tips内)

世界患者安全の日 キャンペーン開催

当院では、9月17日(金)の「世界患者安全の日(※)」を記念し、ライトアップなどを実施します。詳細は附属病院HPをご確認ください。

※患者安全の促進・国際理解の普及を目的に2019年WHO総会で制定。

編集後記

第65号は病院執行部特集として、令和3年4月1日に、三浦裕正前病院長の後任として新たに就任された杉山隆病院長と副病院長3名のご担当する分野に対する抱負を語って頂きました。愛大病院の新たな息吹を感じ取って頂けましたら幸いです。また、愛大病院では、情報発信における取り組みとしてSNSにも力を入れており、この度、新たにQRコードによる紹介を導入しました。今後とも幅広い読者の方にメッセージをお届けいたします。

広報委員会委員長 熊木天児

◎表紙

■前列左から

副病院長(診療・教育担当)竹中 克斗

杉山 隆

副病院長(総務・経営担当)雑賀 隆史

■後列左から

副病院長(橋渡し研究推進担当) 大澤 春彦

副病院長(患者サービス担当)久保 幸

副病院長(地域連携・地域医療再生担当) 日浅 陽一

副病院長(医療安全・危機管理担当) 萬家 俊博

附属病院動画を YouTubeで公開

2件の動画が愛媛大学の公式YouTubeチャンネルにて公開されました。

「愛媛大学医学部附属病院の目指す医療」
当院では多職種によるきめ細やかな入退院支援と調整、地域連携を行っており、本動画では杉山病院長より当院の目指す姿、当院の目標の一つである「愛媛県民から信頼され愛される病院」を目指した実践のほか、総合診療サポートセンターについても紹介しています。

<https://youtu.be/FaQAKTtxu7g>

医療サービス課 国089-960-5182



「あいだい体操」

入院による筋力や嚥下機能、認知機能の低下を予防するため作成された「あいだい体操」は、座ったままでも楽しく体操を行うことができます。

<https://youtu.be/dpSnQH5QH8M>



総合診療サポートセンター 国089-960-5261

令和2年度臨床研修プログラム 修了式を実施



令和3年3月26日(金)、医学部附属病院地域医療支援センターで、令和2年度臨床研修プログラム修了式を実施しました。修了式では、三浦裕正前病院長から、「新型コロナウイルス感染症の影響で様々な困難があつたと思うが、更なる高みを目指してほしい」と修了生に激励の言葉が贈られました。今後は、学んだことを活かして、患者さんに最高の医療を提供できる医師、歯科医師を目指してください。期待しております!



総合臨床研修センター 国089-960-5098



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 国089-964-5111(代)
ホームページ <https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>

